

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	1 広報宣伝事業					
事業の目的	新聞広告によるチャグチャグ馬コ(岩手日報)、盛岡さんさ踊り(毎日新聞中部エリア)など各種観光事業の宣伝及びホームページへの新着情報、各事業情報の随時更新を行い、県内外に効果的な情報発信を行う。					
事業の内容	観光イベント等情報の新聞広告掲載を行うほか、インターネットを活用し観光情報を収集・発信する事業である。					
事業の必要性	観光振興のため、最新で細かな情報発信を行い、観光客の利便に資することにより、誘客推進に努める必要がある。					
成果指標	対 象	①新聞掲載回数、②ホームページ( <a href="http://hellomorioka.jp">http://hellomorioka.jp</a> )訪問回数				
		平成25年度 ①7回, ②118,901回	平成26年度 ①5回, ②138,589回	平成27年度 ①2回, ②153,861回	平成28年度	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計 (内訳)	752,007	1,118,654	639,570		
	通信運搬費	61,507	74,243	45,710		
	委託費	652,750	641,960	592,920		
	その他	37,750	402,451	940		

## 事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

各種広報媒体を使って広く情報発信することは、旅行先として興味を持ってもらい誘客につながることから実施目的は適切である。

## 役割分担の適正性の評価

協会は観光に関する様々な情報を保有しており、盛岡広域圏及び三陸の総合的な情報提供に貢献していることから役割として適切である。

## 事業の有効性の評価

ホームページへのアクセス状況も好調で、情報告知により震災以前の誘客数に回復しつつあることから成果が上がっている。

## 経費の評価

最低限の経費と人員で実施しておりコストの効率性は高い。経費削減は情報提供量の低下に直結する。

## 今後の取組み方針(課題の解決策)

県外へのPRを強化し一層の誘客に結びつけるため、限られた事業予算を有効活用するよう努める。

## 観光コンベンション部長意見

宣伝告知によって行事事業への来場者数は大きく影響するので、少しでも多くの箇所にアピールすること。広告・HPに加えて、マスコミ各社へのきめ細かな情報提供にも、より一層努めること。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	2 観光案内事業					
事業の目的	盛岡を訪れる観光客に盛岡のまち並みや見どころを丁寧に案内し、盛岡の魅力を楽しんでいただくことにより観光振興を図る。					
事業の内容	盛岡ふるさとガイド(市民ボランティアガイド)が、盛岡の魅力的な見どころを組み込んだ「啄木・賢治青春の道」、「先人と町家の道」などのコースについて、歩いて案内し観光を楽しんでいただく事業である。					
事業の必要性	盛岡を訪れてくれた観光客に、魅力ある観光案内を行い、リピーターを含め観光客の増加を図り、地域経済の発展につなげる必要がある。					
成果指標	対 象	ふるさとガイドによる案内客数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用 (円)(人件 費, 賃金, 福 利を除く)	経常費用計	1,245,053	1,103,510	1,100,818		
	(内訳)					
	諸謝金	260,000	200,200	194,000		
	支払助成金	150,000	150,000	150,000		
	委託費	640,000	640,000	640,000		
	その他	195,053	113,310	116,818		

## 事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

盛岡を訪れる旅行客に観光を楽しんでもらうことは、誘客につながることから実施目的は適切である。

## 役割分担の適正性の評価

街歩きコースの開拓、盛岡ふるさとガイドの育成など当協会ならではの取組みで本事業を運営し、盛岡広域の観光・コンベンション振興に貢献しており適正な役割である。

## 事業の有効性の評価

教育旅行を中心にふるさとガイドが活用され、案内者数が増加傾向にあることから成果が出ている。

## 経費の評価

盛岡さんさ踊り、盛岡秋まつり等のイベント時に無料観光ガイドを行うなど費用対効果の高い運営を行っている。

## 今後の取組み方針(課題の解決策)

他県では、予約なしで当日申込みでガイドをしていただけるメニューが好評を得ていることから、協会としても同様の要望があった場合対応が出来るか検討したい。

### 観光コンベンション部長意見

歩いて楽しむまち盛岡をキャッチフレーズに、引続きふるさとガイドを活用し盛岡の魅力をアピールすること。また、観光客にとってより利用しやすい観光ガイドのあり方等について引き続き検討すべきと考える。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	3 観光客誘致促進事業    6 観光資源活用事業				
事業の目的	盛岡及び盛岡広域圏への誘客を推進する				
事業の内容	誘致キャンペーンにおけるPR活動や伝統芸能のPR及び誘客活動並びに各種イベント実施団体に対する支援を行い集客を図る。また、盛岡市東京事務所などと連携し地元の観光資源をPRする。				
事業の必要性	地域の活性化と経済効果を促進するために機会を捉えたPRや国内外における誘客活動が必要である。そのため、大型キャンペーンや首都圏での観光PRを行うほか、教育旅行及び外国人旅行者の誘致のため県外、国外の観光博覧会等に職員を派遣し、エージェンなどに対し観光資源のPR活動を行う。さらには冬季イベントなどを支援することにより年間を通じた誘客を図る。				
成果指標	対 象	教育旅行, 国内外観光客誘致の活動回数			
		平成25年度 6回	平成26年度 11回	平成27年度 16回	平成28年度 
経常費用(円) (人件費, 賃金, 福利を除く)	経常費用計 (内訳)	2,946,469	3,020,485	1,102,626	
	旅費交通費	1,096,110	1,281,305	248,732	
	印刷製本費	314,685	610,870	16,200	
	諸謝金	200,000	79,040	66,000	
	支払負担金	934,000	573,500	474,000	
	その他	401,674	475,770	297,694	

<b>事業の必要性の評価(実施目的の適正性)</b>
効果的な観光客誘致を進めるためには、外的働きかけとともに各種イベント実施団体の支援が必要であることから実施目的は適切である。
<b>役割分担の適正性の評価</b>
協会は国内外にPRできる盛岡広域の観光情報や誘致活動を熟知した人材を保有しており、本事業の実施に最適な団体である。
<b>事業の有効性の評価</b>
修学旅行生や台湾からの観光客が増加傾向にあるので成果が上がっている。
<b>経費の評価</b>
最低限の経費と人員で活動を行っているが、営業活動経費を増加させることにより、さらに効果は高まると思われる。

<b>今後の取組み方針(課題の解決策)</b>
引続き誘客活動を継続する中で、更なる教育旅行誘致のため北海道新幹線開通をにらんだPR活動を検討する。

**観光コンベンション部長意見**

今後も首都圏を中心にPR活動を行うとともに機会を捉えて北海道、名古屋、関西圏にも活動を広げること。  
 今後もバス会社、エージェン等と協力してキャラバンに参加し盛岡の魅力をアピールすること。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	4 まつり行事振興事業					
事業の目的	各種まつり、伝統行事を育成し、県内外に広くPRすることにより、観光振興を図る。					
事業の内容	各種まつり、伝統行事への支援、助成及び告知宣伝を行う。					
事業の必要性	観光振興を図るため、盛岡を全国にPRできるまつり・伝統行事について、県内外から是非見たい、参加したいと思っただけのPRと機会を作る必要がある。また、市民に地元のまつりの魅力を味わってもらうことが伝統文化の継承にもつながる。従って、まつり・伝統行事を育成、継承していくためにも支援・助成及び宣伝を行う。					
成果指標	対 象	支援・助成したまつり行事数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用 (円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	1,688,453	1,300,080	1,299,864		
	(内訳)					
	消耗品費	385,068	0			
	支払負担金	857,000	857,000	857,000		
	支払助成金	445,000	442,000	442,000		
	その他	1,385	1,080	864		

## 事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

まつり、伝統行事を育成、継承、PRすることは、誘客につながり観光振興が図られることから適切である。

## 役割分担の適正性の評価

当協会の持つノウハウと人材を活用し、地域の観光資源を有効にPRするため、役割として適正である。しかし、秋まつりの山車運行事業の準備は、数人の職員を2か月程度投入しなければならない事務量であることから、関係団体と業務分担を協議する必要がある。

## 事業の有効性の評価

支援、助成及び宣伝効果により各行事の運営がスムーズに行われ成果は上がっている。

## 経費の評価

最低限の経費と人員で実施しておりコストの効率性は高い。

## 今後の取組み方針(課題の解決策)

山車運行に係る準備及運行当日の業務については、業務全体の効率化を検討するとともに、今後の運営の在り方、役割分担等について関係機関と協議する。

## 観光コンベンション部長意見

- ・引続き市内の各種まつり事業に参加・協力し、観光客誘致に努めること。
- ・盛岡秋まつり(山車)については、首都圏をはじめインバウンドを見据えたPR活動を行うとともに、衣装の貸与など市民が参加しやすい環境づくりを検討する必要がある。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	5 ブランド振興事業(フィルムコミッション事業・観光土産品推奨事業)					
事業の目的	盛岡市及び盛岡広域の魅力を地元ブランドとして、テレビ、CM、映画等映像を通じて全国にPRし、誘客を図り観光振興につなげる。 また、公益財団法人岩手県観光協会が主催する観光土産品推奨・審査制度を活用し、優良な土産品(ブランド品)生産の振興を図る。					
事業の内容	映像製作関係者にロケ適地を紹介するほか、ロケ隊の現地案内、撮影許可支援等を行いテレビ・CM・映画等のロケを誘致するほか、新規ロケ候補地を開拓することでブランド力を強化する。 また、優良な土産品生産の振興を図るため、公益財団法人岩手県観光協会が主催する観光土産品推奨・審査制度を広く周知し、制度の活用を促す。					
事業の必要性	全国的にテレビ、映画等を通じて各地の観光資源が紹介されるなか、当地域としても特色ある観光資源を映像を通じて効果的にPRし、知名度を高め、誘客による地域の活性化を図る必要がある。 そのため、映像制作関係者に誘致を働き掛けるものである。 観光客等に優良な土産品を提供することは、盛岡及び盛岡広域について好印象を与え、リピーターにもつながることから観光振興には欠かせないものである。					
成果指標	件数:①ロケ支援 ②岩手県観光協会に対する観光土産品推奨					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	①	48件	64件	63件	①	①
	②	6件	9件	8件	②	②
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	232,500	205,696	233,677		
	(内訳)					
	消耗品費	31,500	0	0		
	支払負担金	148,000	202,000	197,000		
	支払助成金	50,000	0	0		
その他	3,000	3,696	36,677			

## 事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

盛岡広域の知名度を高め観光振興を通じて地域の活性化を図るためロケの誘致や優良土産品の生産を奨励するものであるから実施目的は適正である。  
観光土産品の推奨について支援することは、優れた観光土産品の発掘や観光振興につながるため、実施目的は適正である。  
また、土産品推奨には全国・県の推奨審査会への参加が最も効果的であることから、本事業の実施は最も有効な手段と言える。

## 役割分担の適正性の評価

当協会は、盛岡広域圏のロケ地情報を迅速に提供し、現地とも情報共有、支援を行うことができるネットワークや賛助会員への情報提供のノウハウを有していることから協会が実施する事業として適正である。  
観光土産品推奨において、賛助会員へ出品案内・推薦を行っていることから協会が実施する事業として適正である。

## 事業の有効性の評価

盛岡広域圏でのロケ件数が毎年安定してるほか、ロケ地の問い合わせ、下見、撮影がコンスタントにあることから意図した成果が上がっている。また、広域圏内で情報共有を図ることで幅広い情報提供ができる。  
観光土産品の推奨件数について、内訳で新規の応募が前年度に比べて増えたことから意図した成果が上がっている。

## 経費の評価

いずれの事業も最低限の経費と人員で実施しており、コストの効率性は高い。

## 今後の取り組み方針(課題の解決策)

引続き事業を展開するとともに最新の情報収集に注力する。

### 観光コンベンション部長・総務部長意見

FC事業について、日頃からロケ地の情報収集や広域市町との情報交換を行い、問い合わせ時にはフレッシュな情報を提供できるよう準備しておくことが重要である。  
また、観光土産品の推奨制度について引続きPRに努めること。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	7 観光客受入体制整備事業					
事業の目的	盛岡駅を利用する国内外の観光客や学会等で来盛された方に盛岡広域圏を中心とした北東北全般の観光案内を行う。					
事業の内容	盛岡駅構内南口のいわて・盛岡広域観光センターにおいて、岩手、青森、秋田各県のパンフレットの提供及び具体的な観光案内や宿泊施設の紹介を行い、来県者の利便に供する。					
事業の必要性	盛岡駅を利用する観光客等の利便に供する本事業は、県内及び青森県・秋田県への誘客促進と周遊観光への誘導、リピータの確保に必要な事業である。					
成果指標	対 象	いわて・盛岡広域センター対応者数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	807,066	838,434	910,674		
	(内訳)					
	通信運搬費	220,583	212,610	213,048		
	光熱水費	339,235	370,851	327,229		
	賃借料	119,689	135,157	206,652		
その他	127,559	119,816	163,745			

## 事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

利用者の利便性を考慮すれば、当該箇所への案内所の設置は必須。震災後に落ちこんだ外国人観光客も着実に増加傾向にあり、盛岡市内を筆頭として北東北全体の案内に加え、二次交通や駅敷設等に関する情報提供も多くを占めており、盛岡の印象を左右する重要な事業である。

## 役割分担の適正性の評価

情報収集とスキルの蓄積や外国語対応等を考慮すれば、当協会が実施団体としては最適である。北東北の観光の拠点・結節点として、広域周遊観光に対する精度・鮮度の高い情報提供を行っている。旅行者の高齢化・興味の細分化については、より細やかな情報収集のため関係各所の協力体制を強化したい。

## 事業の有効性の評価

案内内容の細やかさや外国人観光客への広範なケア、生活情報を含めた情報提供等有効な業務を行い来盛者の利益に供していることから、意図した成果が上がっている。特に外国人の対応については、JR盛岡駅からも歓迎されている。

## 経費の評価

最低限の経費と人員で実施しているので効率性は非常に高い。また、広範な観光情報への精通や外国人の対応のためには、担当職員の長期的な育成と外国語対応ができる職員の定着化が必要である。従って、人材確保のために人件費を含めた事業運営費の更なる確保が求められる。

## 今後の取組み方針(課題の解決策)

盛岡広域観光推進には必要不可欠な事業である。どのエリアも観光に力点を置き、日々新たな取り組みをしている状況下、歴史文化のみならず最新の食やイベント・観光スポット等についての広汎な知識を要するため、職員のモチベーションの維持向上と適切なインプットの場面設定が不可欠である。

### 観光コンベンション部長意見

課題である人材の定着化のためには適切な事業運営費の確保が必要と考える。28年度からは北口観光案内所がなくなることから、関係機関と協議の上、南口の現観光案内所への案内誘導を図ること。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	8 おもてなし観光推進事業					
事業の目的	県内特にも沿岸地域に対する誘客を推進するほか、盛岡駅北口観光案内所にて観光情報・復興情報を提供し、利用者の利便に供することで誘客を図り地域の活性化に努める。					
事業の内容	1. 被災地復興支援誘客コーディネート事業 復興支援に関する情報収集を盛込んだ被災地観光パンフレットを作成し、コンベンション終了後の旅行先として旅行会社に紹介するなど復興支援を目的とする事業。 2. 盛岡駅観光案内等サポーター事業 盛岡駅北口構内観光案内所に観光サポーターを設置し、盛岡駅を訪れる旅行者に対して観光情報、被災地情報を提供するほか、観光相談や助言を行い利用者の利便に供する事業。					
事業の必要性	沿岸地域復興の継続の意味からも、旅の面で支援することと盛岡駅構内北口観光案内所において観光情報と復興情報を提供することで県内への誘客を図る。					
成果指標	対象	北口観光案内所対応者数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	40,801人	42,050人	71,684人		
	(内訳)	6,599,642	7,115,850	6,555,458		
	旅費交通費	756,150	874,970	1,845,290		
	印刷製本費	2,269,914	2,163,456	917,514		
	賃借料	1,668,497	1,703,948	1,685,990		
その他	1,905,081	2,373,476	2,106,664			

## 事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

被災県として、従来の観光振興とプラスして防災教育旅行など本県ならではの旅行素材を活用すれば、盛岡及び盛岡を経由した沿岸地域への誘客にもつながる事業であることから実施目的は適切である。

## 役割分担の適正性の評価

協会は県内の観光情報のほか、県外誘致活動に長けた人材及び観光案内ノウハウを有しており、本事業の実施主体として最適である。

## 事業の有効性の評価

教育旅行やコンベンションエキスカージョンの目的地として、沿岸を訪れ震災学習をする団体の希望が増加していることから意図した成果が上がっている。

## 経費の評価

最低限の経費と人員で実施しており、効率性は高い。

## 今後の取組み方針(課題の解決策)

被災地支援及び県内の観光振興のため、引続きパンフレット等の観光ツールを提供し事業を展開する。

### 観光コンベンション部長意見

- ・緊急雇用事業の最終年として首都圏等に観光客誘致活動を行う際も被災地の観光情報と防災教育の旅行先としてPR活動を行い、忘れかけられている被災地情報の発信を続け、多くの方々に足を運んでいただくよう努めてきた。
- ・28年度からは、事業内容を見直して事業目的を達成するよう引き続き努めること。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	9 コンベンション誘致支援事業					
事業の目的	国内外の大会・学会について、盛岡及び岩手県内に誘致・支援し、成功に導くことにより地域経済の活性化に貢献する。					
事業の内容	1 国際ミーティング・エキスポ展などにおいて首都圏の学会等主催者に盛岡MICE開催支援助成金等の補助制度を活用した誘致・PR活動を行うほか、地元主催者や旅行業者等へ誘致活動を行う等誘致対策事業 2 ガイドブック、コンベンションバック提供、歓迎看板作製費補助、サポーター派遣等の大会・学会支援事業					
事業の必要性 (この事業を実施するに至った背景)	大会、学会を誘致することは、観光振興の後押しをするとともに地域経済の健全な向上と発展に寄与することとなるため、コンベンション振興を図るものである。					
成果指標	対 象	支援コンベンション参加者数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	9,548,099	8,752,295	21,206,757		
	(内訳)					
	旅費交通費	1,633,830	2,012,662	510,047		
	印刷製本費	4,550,520	3,469,546	5,781,578		
	委託費	1,102,387	848,439	1,315,407		
	その他	2,261,362	2,421,648	13,599,725		

## 事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

コンベンション振興事業を推進することは、高い経済波及効果をもたらすとともに、都市のブランディング等に効果を発揮し、観光振興にも貢献することになり、もって地域の活性化につながることから実施目的は適切である。

## 役割分担の適正性の評価

当協会では首都圏等での誘致から支援まで一連で携わり、かつ、専門性を備えた人材を有し、コンベンション推進のノウハウを有していることから、協会が実施すべき事業として適切である。

## 事業の有効性の評価

盛岡MICE開催支援助成金制度についての問合せが増えていることもあり、誘致に効果が上がっている。

## 経費の評価

最低限の経費と人員で執行しているので効率性が高いと言える。

## 今後の取り組み方針(課題の解決策)

引続き事業展開を行う中で、積極的に助成、支援内容をPRし誘致に結びつける。

## 観光コンベンション部長意見

新幹線の函館延伸で東北・北海道地区がアピールできるチャンスであることから、機会を逃さないよう誘致活動を々とともに、使いやすく見直した盛岡MICE開催助成制度の周知・活用を図ること。



# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	10 企画開発情報収集事業					
事業の目的	誘致、支援のために必要な情報について、各種会議、研修会等で収集を行い、新たな誘致活動と郷土の特色を生かした誘致戦略・企画提案に結びつける。					
事業の内容	地元大学や各種団体の大会・学会主催者に開催に関するアンケートを行う。また、全国、東北規模の各種情報収集連絡会等へ参加して開催情報収集するとともにネットワークを広げ、全国他都市の開催環境、支援内容の情報交換を行い、競争力の強い企画開発につなげる。					
事業の必要性	コンベンション誘致のためには、大会などが予定される時期、規模など開催に関する情報、他都市の開催環境などの情報が必要であり、そのため情報収集活動を行うことは不可欠である。					
成果指標	対 象	情報収集活動回数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	509,034	485,630	384,087		
	(内訳)					
	旅費交通費	311,060	315,790	233,200		
	印刷製本費	13,020	0	13,392		
	支払負担金	154,000	159,000	133,000		
	その他	30,954	10,840	4,495		

## 事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

コンベンション誘致のための開催情報収集活動は必要であることから実施目的は適切である。

## 役割分担の適正性の評価

誘致のためのノウハウと専門性を有する人材を備えた当協会ならではの事業である。

## 事業の有効性の評価

国際、全国規模の誘致の為に収集した情報が活かされていることから意図した成果が上がっている。

## 経費の評価

最低限の経費、人員で運営していることからコストの効率性は高い。

## 今後の取り組み方針(課題の解決策)

引続き事業を実施するとともに、積極的に情報収集を行い誘致活動に結びつける。

### 観光コンベンション部長意見

五都市会議(宮崎・高松・金沢・静岡・盛岡)及び東北地区コンベンション推進協議会等の誘致会議に参加し、誘致に係る情報に基づき学会事務局を訪問して盛岡のコンベンション環境の魅力をアピールすること。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	11 自主企画事業の展開などによる観光・文化の振興事業					
事業の目的	盛岡を訪れる観光客や市民に自主企画事業を通じ、盛岡広域の観光・文化に興味や関心をもっていただくことにより、観光客の誘致及び交流人口の拡大を図る。					
事業の内容	<p>1. 盛岡市観光文化交流センター(盛岡市から管理指定) さんさ踊りなど郷土芸能の公演、観光客・市民参加の伝統芸能体験講座、盛岡にゆかりのある人物、歴史などを題材とした催事などを行い盛岡広域の観光資源や文化情報を発信する。</p> <p>2. もりおか啄木・賢治青春館(盛岡市から管理指定) 石川啄木、宮沢賢治に関する資料の常設展示を行うとともに、啄木・賢治の青春時代と当時の盛岡の姿について、観光客を含めた多くの方々に新鮮なスタイルで紹介する。また、企画展では盛岡ゆかりの芸術家の作品の展示、さらにコンサートを開催し魅力ある観光資源、文化情報を発信する。</p> <p>3. もりおか歴史文化館(株式会社乃村工藝社と共同で盛岡市から管理指定) 当協会の観光アテンダントが「まちなか情報センター」及び「ミュージアムショップ」において、来館者に盛岡広域の観光、自然、各種観光施設を紹介するなど、同館の受付機能を活用し広く観光案内を実施する。</p>					
事業の必要性	地域社会の健全な発展のためには、地域の観光振興と交流人口の拡大を図る必要があることから、盛岡市から管理指定を受けた観光文化振興施設を拠点として、観光案内を行うとともに、郷土色豊かな自主事業を企画、実施し不特定多数の方々に参加していただく事業を展開するものである。					
成果指標	対 象	①自主事業参加者及び入場者、②もりおか歴史文化館入館者数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	41,747,780	45,751,470	33,417,666		
	(内訳)					
	光熱水費	6,580,802	7,851,905	5,008,843		
	諸謝金	1,313,092	1,983,457	1,698,536		
	委託費	27,110,324	28,765,295	18,824,651		
	その他	6,743,562	7,150,813	7,885,636		

<b>事業の必要性の評価(実施目的の適正性)</b>	
特色のある自主事業を展開することは、多くの方々に興味をもっていただき観光振興及び交流人口の拡大につながることから実施目的は適切である。	
<b>役割分担の適正性の評価</b>	
当協会では様々な自主事業を企画、運営できるノウハウ、人材、ネットワークを有しており、協会が実施すべき事業として最適である。また、もりおか歴史文化館については、乃村工藝社及び当協会がそれぞれの持つ特性・機能を活用し効果的な運営を行っていることから役割は適正である。	
<b>事業の有効性の評価</b>	
いずれの自主事業も参加者のアンケート内容を見ると好評であり、事業計画及び運営手法が適正であると評価されているとみられる。	
<b>経費の評価</b>	
最低限の経費と人員で実施しておりコストの効率性は高い。	

<b>今後の取組み方針(課題の解決策)</b>	
魅力ある自主事業を展開することにより観光・文化の振興に資するよう引続き事業を実施する。	

## 企画管理部主幹・総務部長の意見

- ・ホールの立地環境と特色を活かした事業展開により、ユニーク且つ地域に根差した催事の実施を心がけており、アーティストへの活動の場の提供と、それら高い文化性を双方で共有できるメリットは大きい。
- ・もりおか歴史文化館は、歴史博物館的機能とまちなか観光の拠点として好評を得ていることから、引続き創意・工夫をもって運営すること。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日
評価担当者職・氏名	—

事業名	12 施設の管理運営事業					
事業の目的	観光・文化施設について、観光案内など利用サービスの充実を図るとともに施設の適切な維持管理を行い、施設利用者が快適に過ごせるようにする。					
事業の内容	<p>1. 盛岡市観光文化交流センター(盛岡市から管理指定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光文化情報プラザにおいて、国内外の観光客や修学旅行生等に対し、盛岡広域の観光情報の提供や街歩き観光の魅力を紹介するほか、観光相談・助言を行うなど総合的な観光案内を実施する。また、観光グッズの販売やプレイガイド、ホテル旅館斡旋などを行い利用者の利便に供する。</li> <li>・ホール、ギャラリー、会議室等について、貸室業務を行うとともに利用者増に繋がるよう自主事業のPRなどを行う。</li> <li>・施設について、効率的で、かつ安全、衛生面に配慮した維持・管理を行う。</li> </ul> <p>2. もりおか啄木・賢治青春館(盛岡市から管理指定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物販コーナーにおいて、石川啄木、宮澤賢治に関する書籍や絵葉書、土産用観光グッズを販売する。</li> <li>・観光客等の憩談、休憩場所として喫茶コーナーを管理運営する。</li> <li>・施設について、効率的で、かつ安全、衛生面に配慮した維持・管理を行う。</li> </ul> <p>3. 啄木新婚の家(盛岡市から管理委託)</p> <p>市内唯一の武家屋敷という貴重な文化施設として、また市内観光ルートの名所の一つとして適切な管理運営を行う。</p>					
事業の必要性	観光・文化の振興、交流人口の拡大を図り、もって地域の活性化に貢献するため、観光文化施設を活用して観光案内、各種観光情報の発信を行い、利用者の利便に供し誘客促進に努めるものである。					
成果指標	対 象	①盛岡市観光文化交流センター、②もりおか啄木・賢治青春館、③啄木新婚の家の入館者				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		①115,442人 ② 44,732人 ③ 18,333人	①116,785人 ② 42,449人 ③ 18,613人	①116,490人 ② 40,076人 ③ 19,061人		
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	37,054,998	34,649,792	35,173,023		
	(内訳)					
	燃料費	980,694	657,099	467,110		
	光熱水費	7,265,833	6,362,452	6,657,175		
	賃借料	906,672	809,785	552,798		
その他	27,901,799	26,820,456	27,495,940			

<b>事業の必要性の評価(実施目的の適正性)</b>
施設利用者の利便に供し、施設の好評を得ることは誘客の推進につながり、結果、地域の活性化に貢献するため実施目的は適切である。
<b>役割分担の適正性の評価</b>
当協会では様々な観光情報、運営ノウハウ、人材等を有しており、協会が実施べき事業として最適である。
<b>事業の有効性の評価</b>
修学旅行での来館者及びJR等のキャンペーン時期を中心とした来館者の利用が顕著であることから、目的である情報提供等サービスの面で効果を上げている。
<b>経費の評価</b>
最低限の経費と人員で実施しておりコストの効率性は高い。

<b>今後の取り組み方針(課題の解決策)</b>
盛岡市観光文化交流センターは、建築後15年がたっており施設、設備の修繕や更新の必要性が見込まれるほか、もりおか啄木・賢治青春館についても建物の特殊性と経年劣化から修繕箇所が増加していることから、優先度を考慮し計画的な修繕が行われるよう盛岡市に要望する。

**企画管理部主幹の意見**

- ・施設利用者からの声はおおむね良好であり、今後もこのような運営の継続が望ましいと考える。
- ・経年劣化に伴う施設修繕予算の不足が大きな課題となっており、一部の利用者からの要望に応えかねている。盛岡市所管課と継続的に協議を行うことにより改善を目指したい。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日					
評価担当者職・氏名	—					
<b>事業名</b>	13 収益に関する事業					
<b>事業の目的</b>	盛岡を訪れる観光客及び市民に快適に観光・文化を楽しんでいただくとともに賛助会員及び観光関連団体に観光に関連する各種情報を提供し、観光振興を図ることにより地域の活性化に努める。					
<b>事業の内容</b>	<p>1. 観光グッズ販売事業 盛岡市観光文化交流センターの「観光文化情報プラザ」において、四季折々の盛岡の風景とまつりをデザインした絵葉書やオリジナルグッズを開発、販売することで観光客等に盛岡の魅力を紹介する。</p> <p>2. 第三種旅行業・観光企画事業 「観光文化情報プラザ」において、観光客等の利便性向上及び滞在型観光を推進するため、旅行と連動した滞在型観光について企画、運営する。</p> <p>3. ホテル旅館宿泊斡旋事業 「観光文化情報プラザ」において、観光客等の利便性向上のため、ホテル、旅館の斡旋事業を行う。</p> <p>4. プレイガイド事業 「観光文化情報プラザ」において、各種コンサート、観劇チケットの販売及びチケット印刷業務を行い、市民の文化活動を支援する。また、温泉入浴券、切手、バスカードの販売を行い利用者の利便に供する。</p> <p>5. 接遇研修事業 賛助会員ほか自治体や商工会議所などの観光関連団体の職員を対象として、おもてなしの心を向上させることを目的として接遇研修会を実施する。</p> <p>6. 観光カレンダー作製・配布事業 盛岡の観光情報を掲載した観光カレンダーを作製し、賛助会員、観光関係団体、旅行会社に配布することにより観光情報を宣伝する。</p> <p>7. 推せんの店標識貸与事業 協会の賛助会員のうち、観光客や修学旅行生が安心して利用できる飲食・土産品物産、宿泊施設等の店舗について「推せんの店」として認定し、推せんの店標識を貸与する。</p> <p>8. 芝水園事業 高松芝水園について、釣りを楽しむことによる市民の憩いの場として管理運営する。</p> <p>9. レンタサイクル事業 街なか観光推進のため、観光客や修学旅行生向けにレンタサイクル事業を実施する。</p>					
<b>事業の必要性</b>	<p>盛岡を訪れた観光客や市民に観光関連施設に利便性を感じていただくことは、リピーターを含めた誘客を促進し、観光振興につながる。従って、多くの観光客や修学旅行生、市民が訪れる盛岡市観光文化交流センターにおいて、観光客等が求めるサービスを提供するとともにセンターの利用者の利便に供する必要がある。</p> <p>また、賛助会員及び観光関連団体に対する接遇研修の実施やカレンダーを通じた観光情報の提供も行うことは、人材育成や盛岡に興味をもっていただくことになり、結果、観光振興につながる。なお、本各事業はそれぞれが利益を上げることを性格とする事業であるが、事業規模を考慮してまとめて一事業としたものである。</p>					
<b>成果指標</b>	対 象	①観光文化情報プラザ利用者数 ②接遇研修参加者数 ③推せんの店加盟会員数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		28,635人	① 27,060人 ② 延177人 ③ 146件	① 24,000人 ② 延150人 ③ 72件		
<b>経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)</b>	経常費用計	12,427,716	8,861,415	3,581,145		
	(内訳)					
	消耗品費	286,196	72,013	92,490		
	印刷製本費	1,171,800	633,538	1,028,975		
	諸謝金	346,000	756,274	610,400		
	その他	10,623,720	7,399,590	1,849,280		

### 事業の必要性の評価(実施目的の適正性)

施設利用者の利便に供し、施設の好評を得ることは誘客の推進につながり、結果、地域の活性化に貢献するため実施目的は適切である。

【5. 接遇研修】賛助会員・観光関係者向けの研修は、さらなる接遇向上と観光振興につながるため、実施は適切である。接遇研修は短時間で集中的に接遇を学ぶことができるほか、賛助会員・観光関係者の交流促進となるので適切な手段と言える。

【7. 推せんの店】教育旅行等を含む観光客が安心して利用できる各施設を「推せんの店」として顕彰しているものであり、インターネット利用など個人による情報収集方法が多様化している時世においてこそ、こうした協会による推せん制度は必要である。

### 役割分担の適正性の評価

当協会では様々な観光情報、運営ノウハウ、人材等を有しており、協会が実施べき事業として最適である。

【5. 接遇研修】当協会では賛助会員向けのサービスの一つとして接遇研修を実施しており、協会が実施すべき事業と言える。

### 事業の有効性の評価

観光文化情報プラザが多くの来訪者に利用され、好評を得ていることから成果が上がっている。

【5. 接遇研修】接遇研修には多くの賛助会員や観光関係者が参加し好評を得ている。研修による接遇レベルの向上が、盛岡及び盛岡広域を訪れるリピーターの増加につながる。

【7. 推せんの店】インターネット情報やグルメ本が数多く存在する中において、さらに安心・安全・優良な施設等を推せんしている

### 経費の評価

最低限の経費と人員で実施しており、コストの効率性は高い。

【7. 推せんの店】平成27年度の推せんの店標識貸与事業における収支差額は、1,099,396円のプラスであり(15,420円(3年間)×72件=1,110,240円)、協会の収益事業として優良な事業である。

### 今後の取組み方針(課題の解決策)

観光振興につながる事業を実施することはもとより、今後は収益を上げる企画品などの検討も必要である。接遇研修については、賛助会員・観光関係者等の要望を取り入れながら実施する必要がある。

総務部長・企画管理部主幹の意見

施設利用者及び賛助会員からの声はおおむね好評であることから、今後もこのような運営を継続すること。

# 平成27年度公益財団法人盛岡観光コンベンション協会事業評価書

評価年月日	平成28年7月15日					
評価担当者職・氏名	—					
事業名	14 玉山区観光振興事業					
事業の目的	玉山区の観光資源について、県内外に広く周知興味をもっていただくことにより誘客を図り観光振興につなげる。					
事業の内容	1. 啄木学級文の京(ふみのみやこ)講座 石川啄木終焉の地である東京都文京区において、啄木に造詣の深いゲストを招いて講演や対談を行うとともに、盛岡市の特産品の販売や観光PRを行う。 2. 啄木学級故郷(ふるさと)講座 石川啄木記念館敷地内にある旧洪民尋常小学校において、主に盛岡広域の住民を対象として啄木に造詣の深いゲストを招いての講演会を行う。 3. 姫神山やま開き 姫神山において登山の安全祈願、一斉登山、特産品の販売などを行い、優れた景観と自然環境をPRし登山客の誘致宣伝を図る。					
事業の必要性	啄木学級については、盛岡を代表する歌人・石川啄木の顕彰を行なうことにより盛岡の観光・文化の振興を図るものである。特に「文の京講座」については、啄木終焉の地である文京区との共催で行っており、首都圏における観光PRに結びつくものであり、「盛岡デー・イン・東京」関連事業に位置づけられている。本事業がきっかけとなって、文京区と盛岡市との間で「石川啄木ゆかりの地」として平成23年に「災害時における相互応援に関する協定」を、平成24年に「地域文化交流に関する協定」を締結するに至った。 姫神山やま開きについては、姫神山の優れた山岳美と自然環境を多くの人々にPRし観光振興に結びつけるものであり、盛岡市内唯一の山開き行事として定着していることから、今後も継続して実施することが必要である。					
成果指標	対 象	参加者数:①啄木学級文の京講座,②啄木学級故郷講座,③姫神山やま開き				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	①	329人	355人	336人	①	①
	②	51人	46人	56人	②	②
③	約1,000人	約1,100人	約1,100人	③	③	
経常費用(円) (人件費、賃金、福利を除く)	経常費用計	1,995,886	1,630,214	1,726,866		
	(内訳)					
	旅費交通費	469,280	439,140	465,520		
	消耗品費	299,308	297,913	306,215		
	諸謝金	852,542	423,208	483,347		
その他	374,756	469,953	471,784			
<b>事業の必要性の評価(実施目的の適正性)</b>						
石川啄木や姫神山といった観光資源をPRすることは、観光客の誘致につながるものであり、個々の事業の実施目的は適切であるといえる。しかし、盛岡市・玉山村の合併から10年が経過し、27年度末をもって地域自治区も廃止されたことから、玉山区(玉山地域)という括りでなく盛岡全体の観光振興を図る観点から事業を実施すべきである						
<b>役割分担の適正性の評価</b>						
当協会は石川啄木などの地域観光資源を熟知していることから、事業実施主体として適切である。しかし、上記のとおり玉山区(玉山地域)という枠にとらわれず盛岡全体の事業として取り組むことにより、当協会の役割をより効果的に果たすことができると考える。また、啄木学級については、先人顕彰という教育・文化的な側面から石川啄木記念館等の協力が不可欠である。						
<b>事業の有効性の評価</b>						
啄木学級については毎年多数の参加申込があり、やま開きについても、近年、若年層や女性の参加者が増えており、幅広い層の誘客が図られていることから、意図した効果が上がっているといえる。						
<b>経費の評価</b>						
最低限の経費と人員で執行しているの効率性は高いといえるが、玉山地域という括りを廃して盛岡全体の観光振興事業として取り組むことにより、更なる効率の向上が期待できる。						
<b>今後の取り組み方針(課題の解決策)</b>						
個々の事業については今後も継続して実施する必要があるが、啄木や姫神山を玉山地域のみならず盛岡全体の重要な観光資源として捉えて事業に取り組むことにより、成果を更に高めることができるものとする。						

## 玉山支所長意見

盛岡全体の観光振興を図る観点から事業を実施することにより、成果の更なる向上が期待できることから、事業実施の枠組みを協会本体が主体的に取り組む事業として再考すべきと考える。